

鳥獣センター通信

【鳥獣被害対策支援センター】

<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/kankyo/shinrin/mfc/damagesupport/index.html>

新たなカリキュラムで 鳥獣被害対策マイスターを養成

県では、平成22年度から地域の鳥獣被害対策のコーディネーターとして活動する技術指導者を育成し、鳥獣被害対策マイスターとして認定しています。この認定研修は、各地域で被害対策が進む中で6年を経過したこともあり、今年度、研修のカリキュラムの一部を見直して実施しました。

本研修は、研修1から3まで3つに分けて開催されていますが、研修日数をこれまでの4日間から3日間とし、関係機関職員等の受講しやすい日程にしました。また、学修内容はそのままに、新たに「鳥獣害に強い環境改善対策」の学修を設け、現地研修の項目を増やしました。この学修では、これまで推進してきた鳥獣被害対策の成果の一つでもある、モデル集落の中から先導的に取り組まれた集落に入り、具体的な取組状況や課題、今後の展望等について、集落代表者等から直接お話しを伺ったり意見交換をするもので、マイスターとなった際にはこの経験が生きるものと考えています。

場で、研修3を県北地域、県南地域の受講者に分けていずれも木城町で実施しました。木城町で開催するに当たり、木城町役場はもとより、県内モデル集落の一つである木城町の駄留集落の代表者や地区公民館並びに女性部の方々には多大なる御協力を頂きました。

受講者は、研修1・2で66名、研修3の県北・県南の合計で65名であり、過年度の研修を一部受講していた方を含め、マイスターの認定試験では67名が受検し、全員が新たに鳥獣被害対策マイスターとして認定されました。

これでマイスター認定者総数は491名となり、その内訳は図1のとおりとなっています。なお、27年度の野生鳥獣による被害額をみると、人工林に対する被害が前年比の約2倍の約9千5百万円となっていることから、県の林業職の認定者を増やしていく必要があり、林業分野の鳥獣被害対策に関する知識習得のための学修内容も加えながら、受講しやすい環境づくりに努めていきたいと思えます。

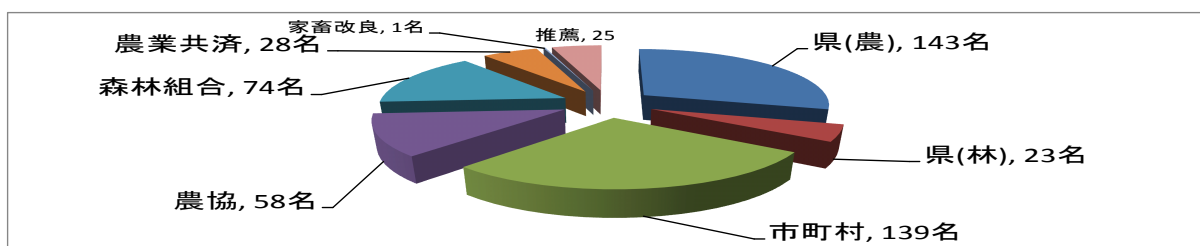


図1



被害対策に関する問合せ
西臼杵支庁及び各農林振興局
各市町村・各農協・各森林組合等

【お詫び】
10/17の発行が遅れましたことをお詫びいたします。

☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

東臼杵（北部）地域

東臼杵におけるアライグマ対策の体制づくりについて

東臼杵地域特命チームでは、今年2月に延岡市北川町でアライグマが捕獲されたことに伴い、これまでにも西臼杵を含めた関係機関による打合せ、センサーカメラの設置等による生息調査を行ってきましたが、今夏、改めて東臼杵地域特命チームにおける広報・情報収集、生息調査、捕獲等の体制について整理し、「アライグマに関する対策について」として明文化しました。

場所の再検討、生息調査を継続してまいります。地域の住民への啓発・情報提供については、

「アライグマ」を目撃した！
チェックシートに当てはまる！
という方は、下段の連絡先へ情報をお寄せください。

平成28年2月に延岡市北川町でアライグマが捕獲されました！
九州各県、隣の大分県でもアライグマが増殖し、被害が拡大しています。



白い線取りのあつた耳
耳の裏側、顔や背側などを見せます。
黒い線取りのあつた耳、黒い線取りのあつた耳、黒い線取りのあつた耳。

住居の被害
・家屋への侵入、農作物の被害があります。
・農作物に被害を及ぼしたり、農作物を食したります。

健康被害・ペットの被害
・ゴミや餌食を奪取します。
・ペットに被害を及ぼしたりすることがあります。

★タヌキなどと非常によく似ていますが、尾の模様、耳の形に特徴があります

よく間違われる他の動物

アライグマ 耳が黒く、白い線取りのあつた耳、黒い線取りのあつた耳、黒い線取りのあつた耳。 耳の裏側、顔や背側などを見せます。 黒い線取りのあつた耳、黒い線取りのあつた耳、黒い線取りのあつた耳。	タヌキ 耳は小さく、黒い線取りのあつた耳、黒い線取りのあつた耳、黒い線取りのあつた耳。 耳の裏側、顔や背側などを見せます。 黒い線取りのあつた耳、黒い線取りのあつた耳、黒い線取りのあつた耳。	アナグマ 耳は小さく、黒い線取りのあつた耳、黒い線取りのあつた耳、黒い線取りのあつた耳。 耳の裏側、顔や背側などを見せます。 黒い線取りのあつた耳、黒い線取りのあつた耳、黒い線取りのあつた耳。
--	---	--

アライグマかもーチェックシート

- 耳の裏側、顔や背側などを見せ、黒い線取りのあつた耳があった。
- スイカに白い穴が開いて中身が空っぽになった。
- 田、畑、ビニールハウスや畑の隅に5本指の足跡がある。
- 柱の上まで5本指の爪痕がある（斜めに痕がついている）。
- 畑に、おののけのような足跡があった（こぶつづつしている足跡）。
- 畑の隅に「バグバグ」「ウウウウ」「クワックワッ」という音が聞こえる。
- 畑の隅に「バグバグ」「ウウウウ」「クワックワッ」という音が聞こえる。

連絡先：延岡市農林畜産課 22-7018 又は 東臼杵農林畜産課 32-6136

まずJA延岡の広報誌9月号に折込チラシとして旧北方町、旧北浦町、旧北川町を主としたエリアに配布、同10月には記事として、延岡市全域への周知を図りました。日向地域についてもJA日向の広報誌10月号に記事を掲載し、1市2町2村に啓発を図っています。

アライグマは、近年九州で急増しており、農業被害も増え続け、深刻化しているという報道もあります。（九州7県での昨年の捕獲数は約3000頭。長崎県、佐賀県では1000頭前後の捕獲数。）

被害が表面化してからは手遅れとの指摘もあり、県下で初期の確かな対策が実行できるような体制づくりが求められています。

西諸県地域

鳥獣被害に強い集落を目指して

えびの市霧島地区は霧島山麓の標高500〜600mに位置し、畜産経営が多く、多くの農地で飼料作物が作付けされていますが、イノシシとシカによる被害で、収穫皆無になるほ場も有り大きな被害を受けていました。

平成27年度に鳥獣被害防止総合対策交付金関係事業を活用してワイヤーメッシュ柵を設置することとなったことから、西諸県地域鳥獣被害対策特命チームでは、集落住民に対して、事業開始前に防護柵の設置方法と維持管理について研修会を開催しました。今回は防護柵の延長が長いいため、参加者の維持管理の負担が大きくなることから、ほ場の外周の2m内側の位置に柵を設置しました。飼料の作付面積は減りますが、柵の外側を乗用機械で管理できることから、定期的に除草を行い、鳥獣の潜み場を無くすことに重点を置きました。7月には柵の外側にも雑草が生い茂り、イノシシの潜みやすい状況になったため、柵の外側をトラクターで耕起した結果、雑草の繁茂を抑えられ見晴らしが良くなり、鳥獣が潜むこともほとんどみられなくなりました。

地域のリーダーからは「柵の外側はあと50cm広く空けておいた方が作業しやすかった」という意見も聞かれ、本年度設置予定の防護柵については「更に管理しやすい方法」で実施する計画です。



除草前（耕起前）



除草後（耕起前）は潜み場が減少